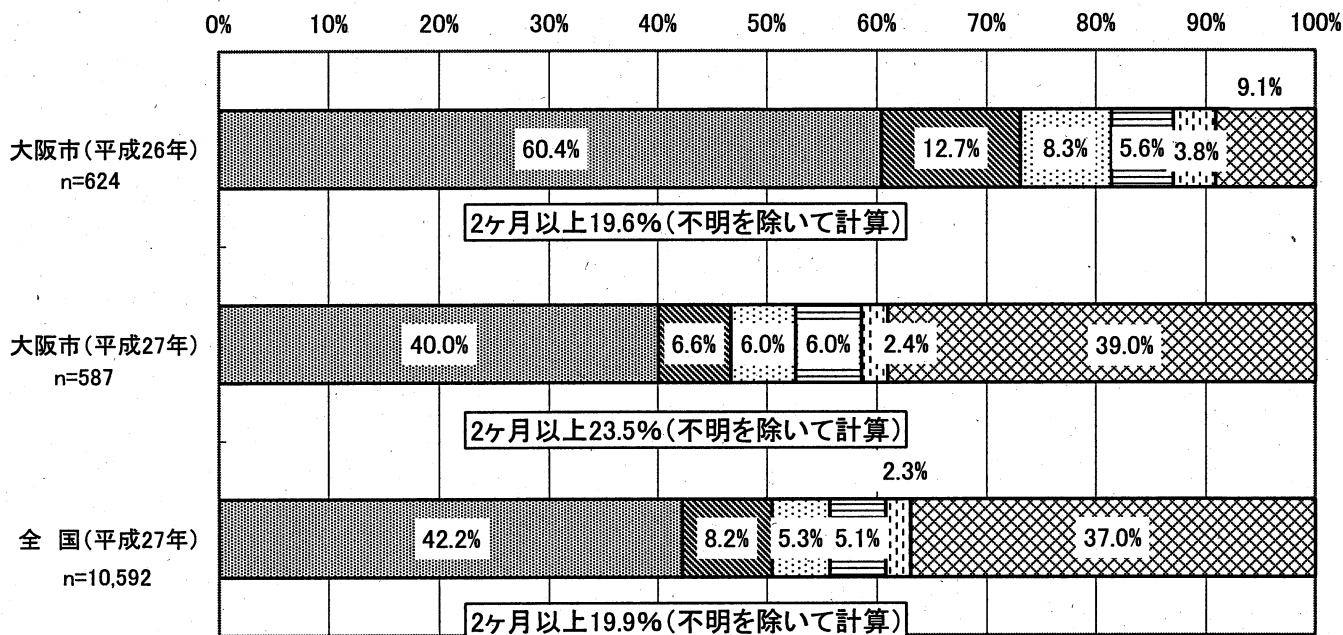


1 有症状肺結核患者における発見の遅れ（平成26・27年）

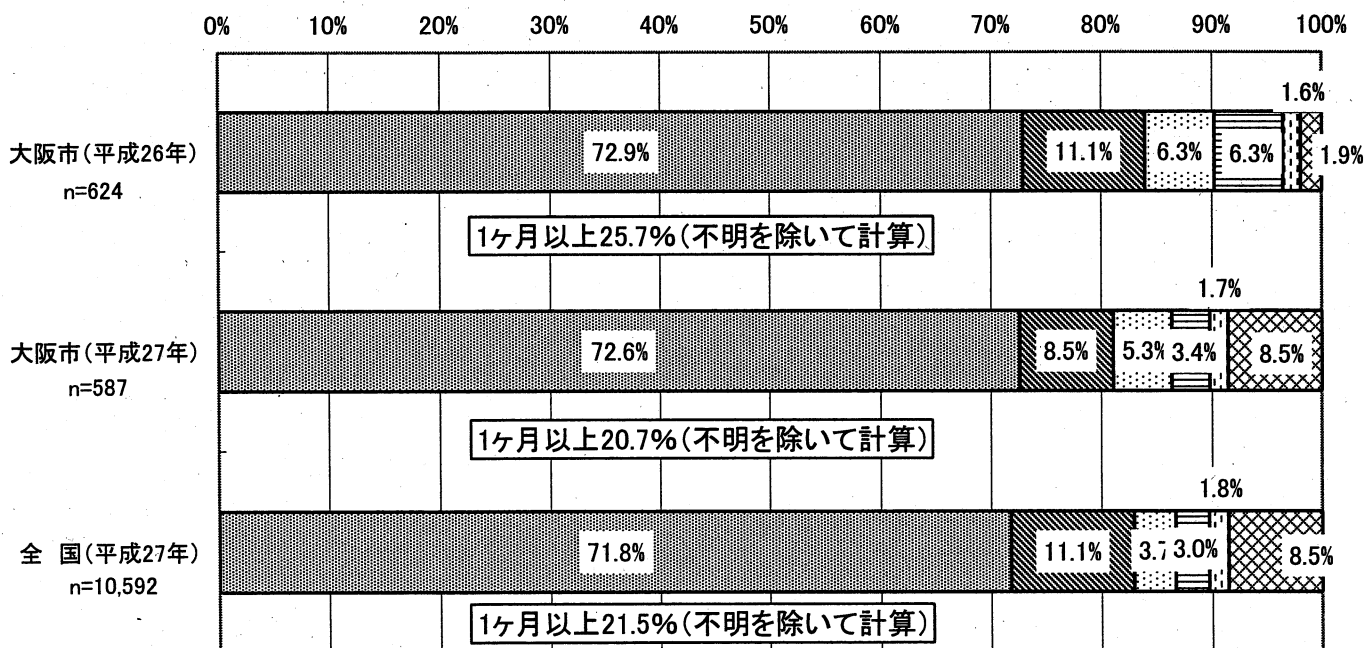
■ 1か月未満 ■ 1～2か月 □ 2～3か月 ■ 3～6か月 □ 6か月以上 □ 不明

（1）発病から初診までの期間



- 不明を除く大阪市の受診の遅れ(期間が2か月以上)の割合は、平成27年23.5%であり、平成26年19.6%より増加していた。全国は19.9%であり、大阪市は全国より受診の遅れのある割合が高かった。

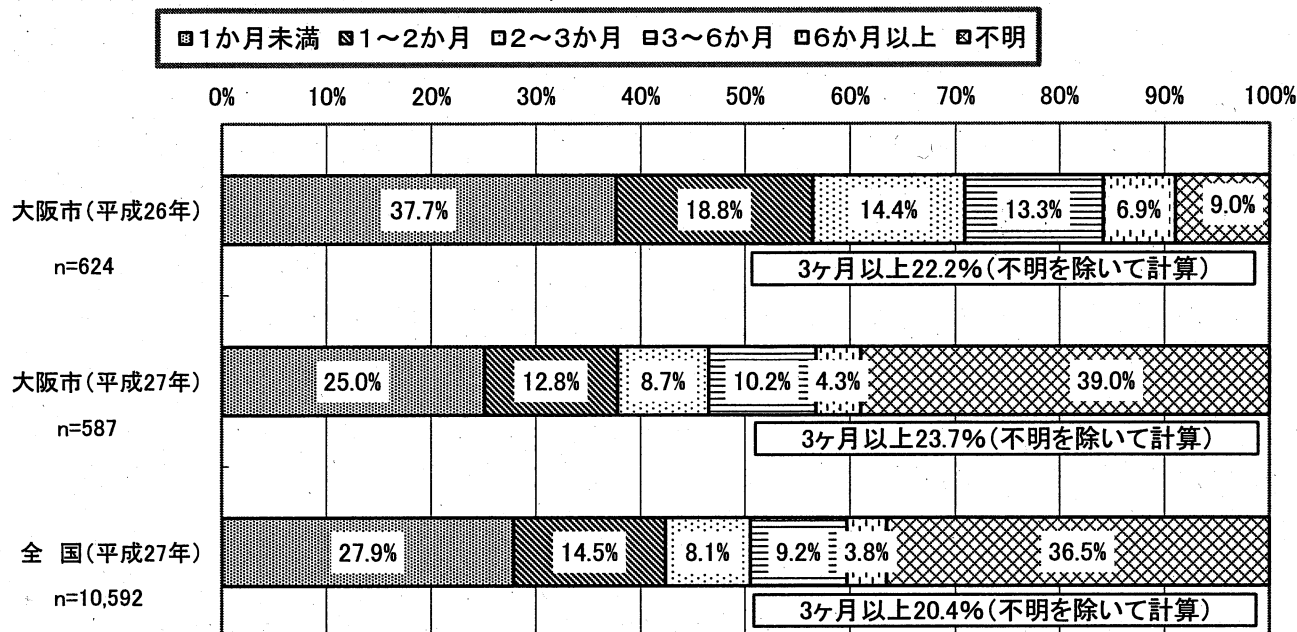
（2）初診から診断までの期間



- 不明を除く大阪市の診断の遅れ(期間が1か月以上)の割合は、平成27年20.7%であり、平成26年25.7%と比べ減少していた。全国は21.5%であり、大阪市は全国より診断の遅れのある割合が低かった。

大阪市の結核 2016

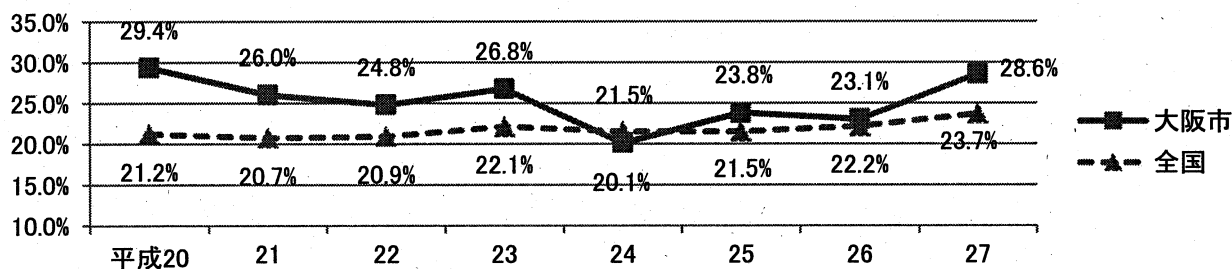
(3) 発病から診断までの期間



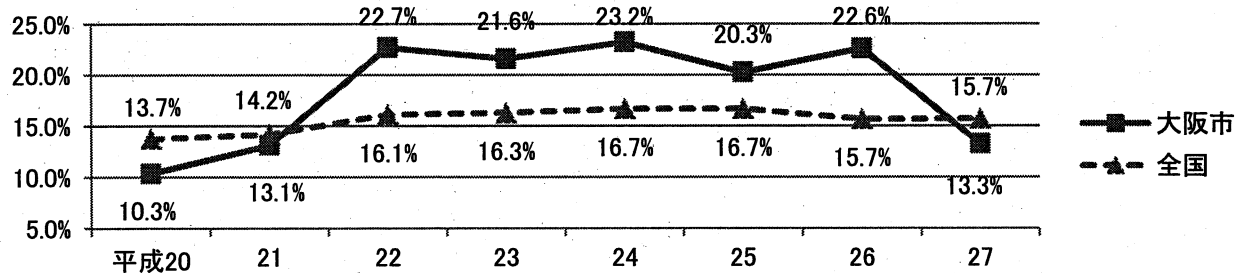
- 不明を除く大阪市の発見の遅れ(期間が3か月以上)の割合は、平成27年23.7%であり、平成26年22.2%と比べ増加していた。全国は20.4%であり、大阪市は全国より発見の遅れのある割合が高かった。

(4) 有症状肺結核患者(塗抹陽性)における受診・診断・発見の遅れの推移(不明除く)

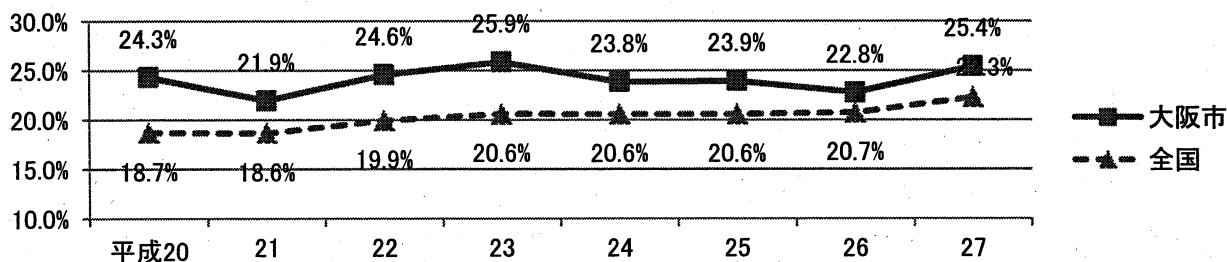
【受診の遅れ】



【診断の遅れ】

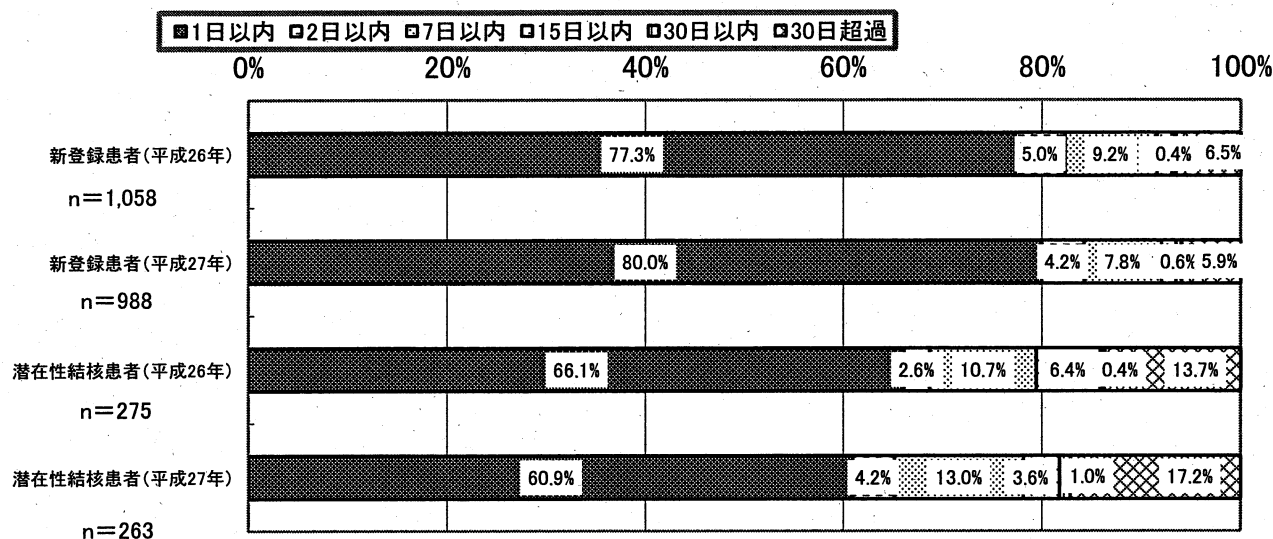


【発見の遅れ】



- 有症状塗抹陽性肺結核では、受診の遅れは平成26年23.1%から27年28.6%へと増加し、全国の23.7%を上回っていた。一方診断の遅れは平成22年以降全国より高かったが、平成27年は13.3%と下回った。

2 発生届までの期間（平成26・27年）



- 新登録患者の発生届が1日以内に提出されていたのは、平成26年77.3%から27年80.0%へと改善していた。一方潜在性結核患者では、平成26年66.1%から平成27年60.9%へと低下していた。

3 ハイリスク集団における結核健診での患者発見（平成27年）

（1）管理健診、定期・住民健診

種別	受診者数	結核患者数	発見率(%)	備考
管理健診	337	0	0.00	結核登録者に対して、結核の予防または医療上必要が認められるときに行う健診
定期・住民健診	5,790	3	0.05	特定健診やがん検診に併設及び各区保健福祉センター等にて実施している結核健診

（2）リスクグループへの健診

種別	受診者数	結核患者数	発見率(%)	備考
あいりん健診	2,687	11	0.41	あいりん地域における検診車を利用した健診
外国人に対する健診※	3,214	5	0.16	日本語学校に所属する外国人に対する結核健診（専修学校等は2年次以降の学生に対して、他の学校については入学時健診を含む）
高齢者に対する健診※	1,808	0	0.00	老人保健施設に入所している高齢者、老人福祉センター利用者を対象とした結核健診

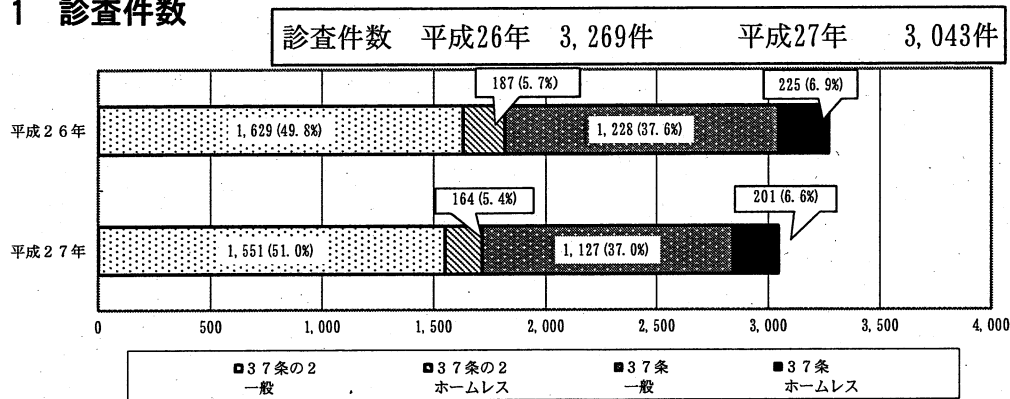
※平成23年4月より実施

- リスクグループへの健診における患者発見率は、あいりん健診が最も高く0.41%、次いで外国人に対する健診0.16%、高齢者に対する健診0.00%の順であった。

（3）健康教育（平成27年度）

対象別	施設数(か所)	参加者数(人)	備考
住民一般	97	6575	区保健福祉センター実施
あいりん	29	679	あいりん地域において実施
外国人	14	17	日本語学校教員に対して実施
高齢者関係	28	482	地域包括支援センター管理者会、居宅介護事業者連絡会、老人福祉センター、介護保険関連施設等に対して実施
医療機関	36	408	
その他	7	55	結核発生のあった事業所、施設、団体等
合計	211	8216	

1 診査件数



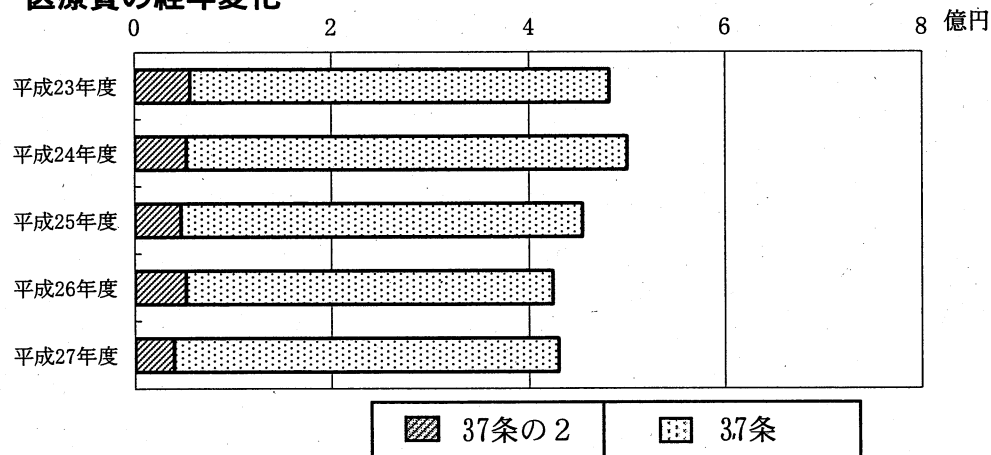
- 平成26年から27年にかけて、全体として診査件数は減少し、一般の診査では、37条の割合は低下し、37条の2の割合は増加していた。一方、ホームレスの診査件数については、いずれも減少し、割合としてもいずれも低下していた。

2 診査結果

			申請件数 (診査件数－ 保留数)	合格	%	不合格	%
一般	37条の2	平成26年	1,617	1,594	98.6	23	1.4
		平成27年	1,534	1,517	98.9	17	1.1
	37条	平成26年	1,228	1,216	99.0	12	1.0
		平成27年	1,127	1,109	98.4	18	1.6
ホームレス、 あいりん地域居 住者	37条の2	平成26年	185	164	88.6	21	11.4
		平成27年	162	152	93.8	10	6.2
	37条	平成26年	225	219	97.3	6	2.7
		平成27年	200	195	97.5	5	2.5

- 診査合格割合は、平成26年から27年にかけて37条では、一般では減少し、ホームレスでは増加していた。37条の2では、一般・ホームレスともに増加していた。

3 医療費の経年変化



- 医療費は、平成27年度は26年度と比べ37条の2は減少したが37条は増加し、合計では約600万増加した。平成23年度と比べると5千万以上減少している。

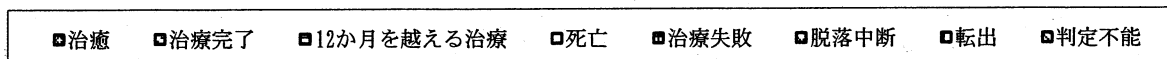
	37条の2	37条	合計
平成23年度	55,797,145	426,927,654	482,724,799
平成24年度	51,963,933	448,242,926	500,206,859
平成25年度	46,361,451	407,964,666	454,326,117
平成26年度	51,294,848	372,452,425	423,747,273
平成27年度	39,124,356	390,567,902	429,692,258

※医療費は年度表記。(3月診療分～2月診療分)

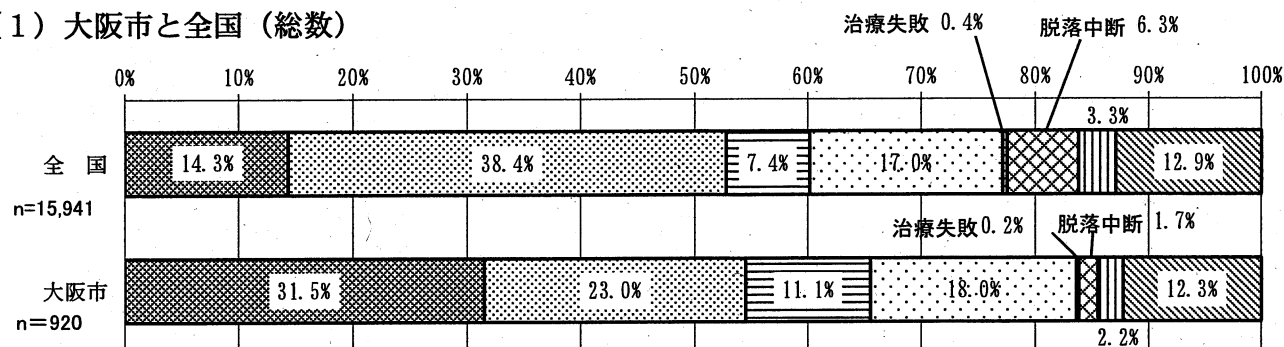
(単位：円)

1 治療成績（平成26年新登録肺結核患者）

※結核発生動向システムより

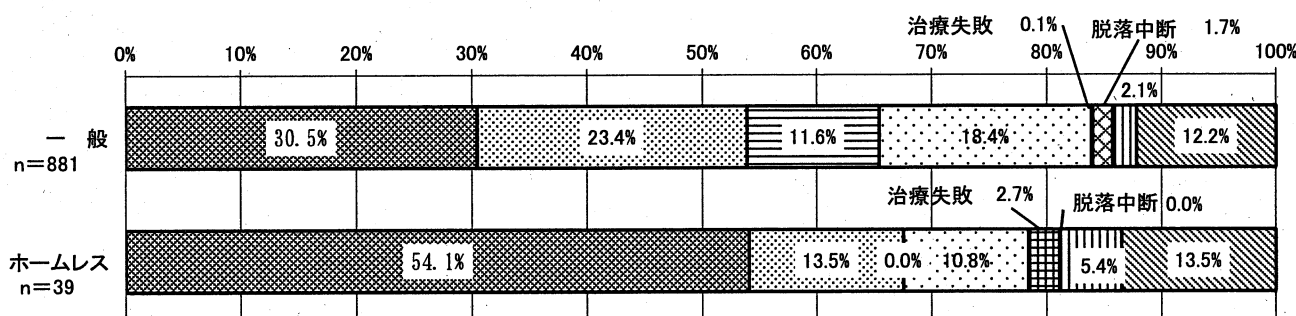


(1) 大阪市と全国（総数）



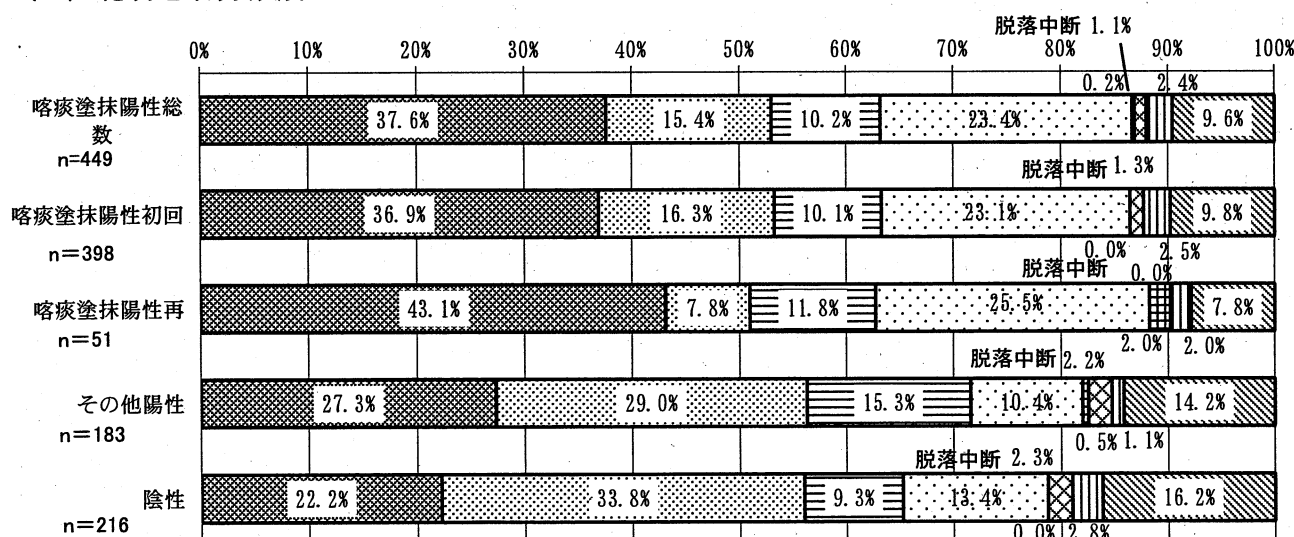
○ 治療成功割合（治療と治療完了の和）は、大阪市54.5%であり、全国52.7%より高かった。一方治療失敗・脱落中断割合は、大阪市1.9%であり、全国6.7%より低かった。

(2) 一般・ホームレス（総数）



○ 治療成功割合（治療と治療完了の和）は、一般53.9%、ホームレス67.6%であり、ホームレスの方が高かった。治療失敗・脱落中断割合は、一般1.8%、ホームレス2.7%であり、ホームレスの方が高かった。

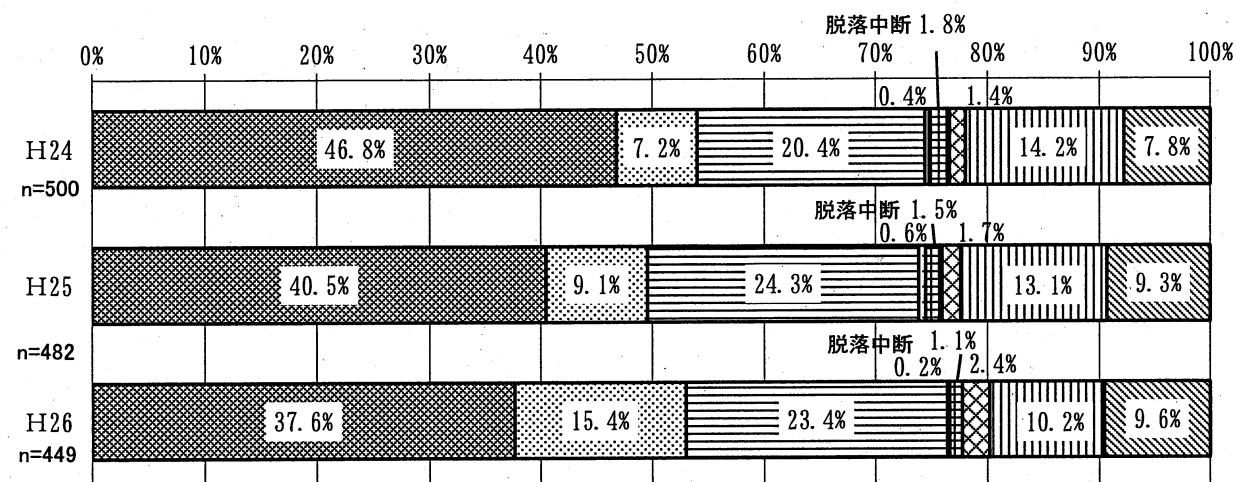
(3) 総合患者分類別



○ 脱落中断割合は、喀痰塗抹陽性では1.1%と極めて少なかった。最も高いのは陰性での2.3%であったが、3.0%以下となっていた。次いでその他陽性が高く、2.2%であった。

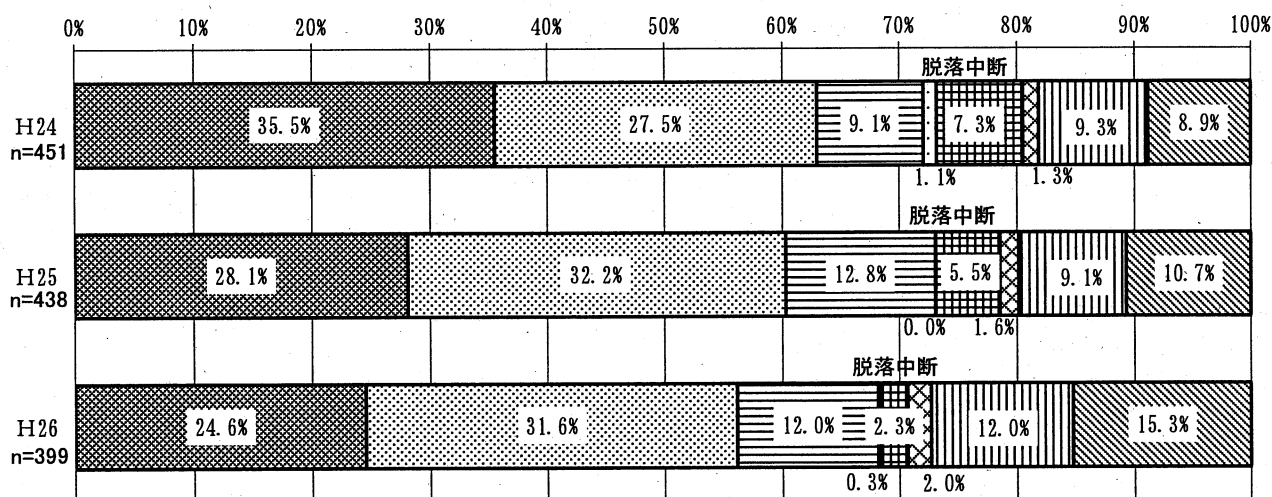
■治癒 ■治療完了 ■死亡 ■治療失敗 ■脱落中断 ■転出 ■12か月を越える治療 ■判定不能

(4) 喀痰塗抹陽性肺結核患者の治療成績の推移



○ 治療成功割合 (治癒と治療完了の和) は、平成25年49.6%から平成26年53.0%へと増加した。
 一方、死亡割合は平成25年24.3%から平成26年23.4%へと減少した。
 また、脱落中断割合は平成25年1.5%から平成26年1.1%へと減少した。

(5) 喀痰塗抹陰性肺結核患者の治療成績の推移



○ 治療成功割合 (治癒と治療完了の和) は、平成25年60.3%から平成26年56.2%へと減少した。
 また、死亡割合は平成25年12.8%から平成26年12.0%へと減少した。
 脱落中断割合は平成25年5.5%から平成26年2.3%へと減少し、3.0%以下であった。